

Scramble Shot



Opera アヴァンシュ音楽祭
《ドン・ジョヴァンニ》

スイスで一番雨が降りにくい場所に建てられたという古代ローマの野外劇場で、今夏も15回目のオペラフェスティバルが開催された。入場すると急傾斜の舞台の上に描かれたモーツァルトの肖像画が出迎えてくれるセットだ。ジャンカルロ・デル・モナコの演出は、登場人物全員に屋外でもわかりやすい個性を与え、地獄に落ちるシーンでは、ブラックホールを思わせる映像をバックの古城に映写し、インパクトを与えた。しかし、稽古期間はドンナ・アンナを歌うはずだった韓国人を即追い出し、ツェルリーナ役のエリカ・グリマルディをドンナ・アンナに抜擢、ドンナ・エルヴィーラ役で契約されていたロシア人を1週間以上も稽古させておきながら、突然解雇するなど、独裁者ぶりを発揮していたらしい。しかしこのグリマルディがドンナ・アンナに適役だったのは、やはり大テノールを父親に持つ息子の耳は確かなのであろう。マルティネンギ率いるオケは、右端に追いやられているせいも、トータルなハーモニーという点では劣るが、歌い手と密にコンタクトを取れる場所にいることもあり、動きの激しい舞台をしっかりとサポートしていた。歌手全員を聴けたわけではないが、特筆すべきは、前述のグリマルディにマゼットのワルター・フランチェスキーとエルヴィーラのジェラルディン・ショヴェ、騎士長のグレゴール・ロジツキだろう。彼らが音楽全体に安定感を与えた上に、若々しい演技力を発揮できる全員のキャストが光ったと言えよう。(中 東生)